

石灰硫黄合剤 石灰硫黄合剤	取扱メーカー： OAT*, サンケイ*, 琉産, 一農 原体メーカー： —
成分： 多硫化カルシウム……………27.5% (全硫化態硫黄……………22.0%)	性状： 赤褐色水溶性液体 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- 作用機作は電子伝達鎖をしゃ断し、ATPの生成が阻害されてADPや無機リン酸が集積し、これは更にATPを生成するために呼吸を促進する。菌体内におけるエネルギー貯蔵が急激に低下して病原菌は死滅するといわれる。
- 殺菌効果は温度が高く、湿度が高いほど低下が激しく、風、雨及び紫外線も低下を促進する。従って野外での効果は長く持続しない。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 0℃以下の場合に保存すると結晶析出のおそれがあるので、万一結晶が析出した場合は、使用前に温かい室内に移動するか、所定量の水で希釈して、結晶を溶解させてから使用する。

〈みかん〉

- 10月及び収穫前に本剤150倍を散布することにより着色の促進又は果実腐敗病（殺菌剤との併用）に對し有効といわれている。

〈りんご〉

- 腐らん病防除の幹洗ひ散布は十分に行う。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 展着剤を加用し、調製液は速やかに使用する。
- 強アルカリ性なので分解しやすい薬剤（有機リン剤など）との混用はさける。
- 強アルカリ性の薬剤（ボルドー液）及び銅剤やマシン油乳剤との混用はさける。
- ボルドー液散布後の使用は2～3週間以上の間隔をとる。
- マシン油乳剤散布後は1カ月以上間隔をとる。

- 高温で日照の強い時は早朝か夕刻に散布する。
- 高湿時や樹勢の弱い園では散布を控えるか、濃度を薄めにする。
- りんごの腐らん病への休眠期散布は、秋季積雪前及び春季発芽前に枝幹が十分濡れるように行う（胴洗ひ黒木消毒）。散布適期は地域により異なるので防除基準に従う。
- りんごの摘花剤として使用する場合は、次の事項に注意する。

○第1回散布は満開期（腋芽を除く中心花及び側花の7～8割が開花した日）とし、第2回散布は前回より3～4日後に散布する。

○天候が悪く開花が長引く場合は、第1回散布を満開2～3日後にしたり、所定の回数より1～2回散布を追加する。

○ミツバチを放飼している園では散布前に回収する。

○摘花剤としての使用には、病虫害防除所など関係機関の指導を受けることが望ましい。

- 一般の落葉果樹に対する発芽後の散布は、濃度、樹勢、気象などの諸条件に注意する。

- 茶の摘採前50日以内の散布はさける。特に春季に番茶用として摘採する茶園では散布しない。

- 適用作物（全般、落葉果樹、茶）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

- 共通注意事項8、適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 青酸ガスくん蒸の前には使用しない。くん蒸後の散布は、2週間位間隔をあける。

- 酸性物質（リン酸第1石灰、リン酸第1カリなどの酸性肥料など）との混用、混入は絶対にしない（有害な硫化水素ガス発生）。

●強アルカリ性のため、噴霧機その他の器具を腐蝕しやすいので、作業後は使用した噴霧機その他の器具を水で十分洗浄する。

●自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石等に散布液がかかると変色するおそれがあるのでかからないように注意する。万一かかった場合は、速やかに水洗いする。

●強アルカリ性のため皮膚を害するので、取り扱いの際には十分に注意する。

●甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。

●蚕に対して影響があるので、桑に散布後30間は蚕に桑葉を給餌しない。



【適用と使用法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	石灰硫黄合剤を含む農薬の総使用回数	
果 樹 類	ハダニ類	80～200倍	夏期	—	散布	—	
	サビダニ類	20～40倍	冬期				
落 葉 果 樹	カイガラムシ類	7～10倍	発芽前				
	ハダニ類 越冬病害虫 縮葉病※						
り ん ご	腐らん病	10倍	休眠期				
	うどんこ病	40～140倍	—				
	モニリア病						60～140倍※
	黒星病	7 倍	発芽前				
も も	縮葉病 胴枯病 黒星病						
	う め						縮葉病
す も も	ふくろみ病						140倍
あ ん ず	うどんこ病	80～140倍					
す ぐ り	芽枯病	20～40倍	発芽前				
か き	黒星病 うどんこ病	100倍	—				
	み か ん	ハダニ類※	20～40倍				冬期
ハダニ類 そうか病 黒点病		80～200倍	— ※				
かいよう病			夏期※				
カイガラムシ類※			20～40倍				冬期
ヤノネカイガラムシ			60～80倍				— ※
たらのき※		胴枯病	7 倍				5～6月※
麦 類		赤かび病	50～60倍※				—
	さび病 うどんこ病	100倍※					
			40～140倍				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	石灰硫黄合剤を含む 農薬の総使用回数
茶	ハダニ類	80～200倍	夏期	—	散布	—
	サビダニ類	20～40倍	冬期			
びゃくしん	赤星病	40倍	—			
ま つ	ハダニ類	20倍	新梢発生前			
桑	カイガラムシ類	7～10倍	—			
	胴枯病	7倍 ※				
		7～10倍 ※				
た ば こ ※	うどんこ病	100～120倍				

作物名	使用目的	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	石灰硫黄合剤を含む 農薬の総使用回数
り ん ご	摘花	100～120倍	満開後	2回	立木全面散布	—

※：同一薬剤名（会社名を除き）であっても登録内容が異なる箇所。使用時には必ずラベルで登録内容を確認すること。